



「一歩前に」

令和3年5月28日（金）

文責 校長 田尻 透

体育大会が終了しました。

●去る16日（日）、体育大会が開催されました。当日の天候は雨の予報でしたが、上島の東海岸の中学校では雨は降らず、晴れ間がのぞき、何の影響も受けなかった学校もあったようです。改めて天草は広いなあと実感したところでした。

●本校では、13種目を8種目に減らして（徒走種目をカット）の開催となりました。開会式のあいさつの中で、私は「これからの長い人生の中で、記憶に残る体育大会にしてほしい。どんな体育大会にするかは自分次第である。」との話をしました。

●序盤はなんとか持ちこたえていた天気ですが、大会終盤に雨がひどくなり、写真のようなグラウンド状況になりました。このような中、生徒は、「躍進」～新しい風とともに道を拓け ～の大会テーマの下、与えられた環境、条件の中で、出来る最大限の力を発揮してくれたと思っています。

●新型コロナ感染症の影響で、学校行事等が大きな影響を受ける中、それに負けない見事な活躍だったと思います。この後、様々な学校行事があります。この体育大会の成功を、必ず今後の学校生活に生かしてくれるものと期待しています。

●ご観覧いただいた保護者の皆様には、早朝の準備から後片付けまで、雨が降る中、本当にお世話になりました。今後とも、本校の学校教育活動に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

情報発信に努めていきます

●本校のホームページが充実してきました。「必要な情報を必要なときに」を目指して、よりわかりやすい情報発信に努めていきます。現在、一月で3000以上のアクセスがあります。

●安心・安全メールの登録も全家庭行っていただきました。HPとの両輪で、今後も積極的に情報を発信していきます。



ピンチをチャンスに

●この言葉は、熊本県の蒲島知事がよく使われる言葉です。自身の経歴を基に、「逆境の中にこそ夢がある」とのお話を私も聴いたことがあります。

●稜南中学校に限らず、今は日本全体が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けピンチの状況が1年以上も続いています。ワクチン接種は始まっていますが、明るい未来は、まだまだ想像できない状況です。

●学校現場でもピンチは続いています。去年の臨時休業での「学びの保障」を踏まえ、全国的にタブレットが導入され、授業時や臨時休業（休校）になった場合の有効的な活用が学校では急がれています。Wi-Fi環境その他、難しい課題があります。

●感染拡大防止という観点からは、3密の回避に腐心しているところです。学習効果を考えると、以前と同じような計画では実施できない活動が多く、こちらも打開策が見出だせていません。さまざまなジレンマを抱えながら、安全優先での諸活動となっています。

●感染拡大前と変わったところだと考えると、私は、「マスクの着用」が学校にとってピンチであると考えています。マスクは当然必要なものですが、マスクを着けていることによって、生徒の表情がわからず、授業の中で、学習の理解が深まっているのか教師にはわかりづらくなっている状況があります。

●また、生徒の側も教師の表情がわからないため、説明だけでは、その意図するところが何なのか判断できない生徒もいるのではないかと思います。改めて授業の大切さを感じているところです。

●人は気持ちを伝える時には主に言葉で伝えますが、表情やその場の雰囲気、意味を理解するうえで重要なファクターになります。マスクを通しての会話は、どこかSNSの会話に似たところがあると感じています。物事の真意が伝わらず誤解を生じる心配さえあります。冗談一つ言い（わかり）にくい時代になってきました。

●ただでさえコミュニケーション能力、表現力、伝える力等が課題と捉えられている現代の子供たちですので、これまでと同じ授業をしていては、これまでと同じ学習効果を期待することは到底出来るはずありません。

●このことを踏まえ、マスクの必要な今だからこそ、自分の気持ちをわかりやすく伝える表現力の育成がさらに必要となると感じています。

●本校では、「ピンチをチャンスに」、このことを全職員が意識して授業他、学校教育活動にあたるとともに、生徒にも意識して生活するよう指導、支援していきたいと考えています。

●マスクが必要でない生活が戻ってきた時に、表現力豊かな生徒の育成が図られているのが私の「夢」です。